

* 「山羊の墓場」の物語

今回は「山羊の墓場」の話である。世の中に「象の墓場」というのがあるといわれている。象は自分の死期を悟ると仲間から離れ、どこかに去って行き、静かに身を横たえ死んでいくと聞く。その場所は決まっておらず、象牙が山になっているとも言い伝えられている。私が少年の頃読んだ話は、象の墓場は滝の裏側にあり、そこで静かに死んでいくことになっており、滝の裏側だからほかの動物に死体を損壊されることもなく、まして人間に見つかることもないという話で神秘的で滝に憧れをもつ原因ともなった。

私は、1994 年から 2002 年まで大型光学赤外線望遠鏡建設のためにハワイ島に住んでいた。そして、この望遠鏡は世界一の性能を発揮するため、地球規模で観測条件のよい場所を選び、太平洋の真っ只中の孤立峰である標高 4200m のマウナケア山頂に建設されていた。このハワイ島滞在の間に「山羊の墓場」は何度も見た光景である。

この建設地を事前に調査する調査隊員に選ばれ、1987 年に現地に 3 ヶ月ほど滞在し、このマウナケア山頂にシーイング調査に通っていた頃、マウナケア山頂の CFHT (カナダ・フランス・ハワイ望遠鏡) の場所からはるかな北東の方向に見えるシンダーコーンを探検したことがあった。下の写真 1 の左手前のシンダーコーンである。マウナケア山頂は何万年かの昔に噴火したシンダーコーンと呼ばれる噴火丘がいくつも連なっており、雨がほとんど降らないため噴火した頃の形状を保って点在しているのである。



写真 1 マウナケア山頂の CFHT 脇から見たシンダーコーン

このシンダーコーンはシンダーと呼ばれる軽く、やわらかい砂利のような火山灰の丘である。マウナケア山頂もこのシンダーコーンの一つである。シンダーコーンは3歩登っては2歩ずり落ちるといような崩れやすい噴火丘なのである。

CFHTのはるかかなたの東北に見えるシンダーコーンの頂上まで2時間かかってたどり着いた。そのシンダーコーンの頂上で見たものが山羊の死骸(写真2)であり、ハワイの保護鳥「パリラバード」の死骸であった。この「パリラバード」については項を改めて書きたい。今日はこの山羊の死骸についての話である。



写真2 マウナケア山頂域のシンダーコーン頂上近くに見られる山羊の白骨

ハワイ島に限らず、ハワイ諸島の島々には家畜が野生化した山羊、豚、馬が生息しています。今回は山羊についてだけ書きます。カウアイ島では増えすぎた山羊を駆除したことさえあると聞きます。ハワイ諸島に人が住み始めたのはそんなに古いことではありません。ハワイの島々は西の島から東の島の順にできていったもので、現在のところハワイ島が一番若く、まだ火山活動が盛んです。

そのハワイ島に人々が移住し、そのとき人間以外の哺乳動物を持ち込み、それらが野生化して住んでいます。持ち込まれた動物のうち、野生化してすんでいるものは、ねずみ、マングース、山羊、豚、馬などです。ハワイ島には猛獣はいませんし、蛇さえいませんから野生化した哺乳類には敵がいないのです。犬が野生化し狼に先祖がえりしなかったのは幸いでした。野生化した山羊、豚の最大の敵は人間です。そして娯楽としての狩猟の対象になっています。豚は野生化し、完全にいのししに先祖返りし、大きな牙さえ携えています。そして山羊は先祖返りして獰猛に大きな角をもった山羊になっています。次の写真3はシンダーコーンの山頂にあった山羊の角です。



写真3 白骨の近くに落ちていた角

下の写真4はマウナロアに向かう途中出会った山羊の群れです。



写真4 熔岩の上に現れた野生に先祖がえりし山羊の群れ

上の写真4のように溶岩の上で群れている山羊を見かけることは非常に珍しいことですが、ハワイ島東部の乾燥地帯のゴルフ場では群れた山羊の親子連れなどを見かけることがあります。

山羊は、草食動物ですから草地に生息しているのですが、その死期を悟ると草木の1本

もないシンダーコーンに少しでも天に近づくように登って行くようです。草がまったくないばかりでなく、水の 1 滴もありません。そこを懸命に登ってシンダーコーンの頂上で息絶えて死んでいくのです。少しでも天に近い、神の懷で死にたいとでもいうようにです。途中で息絶えて頂上まで登れなかったかわいそうな山羊の白骨死体にめぐり合ったときは、その願いがかなわなかったかわいそうな山羊の真っ白い骨がシンダーの上に横たわっている姿がなんとも痛ましいのです。私はハワイ島のシンダーコーンを「山羊の墓場」と思っています。